

# 製剤別 標準製剤との比較データ

2024年4月

	後発品(基礎的医薬品)	標準製剤(基礎的医薬品)
販売元会社名	岩城製薬株式会社	
商品名	デルモゾールGローション	
薬価	27.70円/mL	27.70円/mL
成分・規格	1mL中 日局 ベタメタゾン吉草酸エステル 1.2mg (0.12%) 日局 ゲンタマイシン硫酸塩 1mg (0.1%)(力価)	
薬効分類名	副腎皮質ホルモン・抗生物質配合外用剤	
効能・効果	〈適応菌種〉 ゲンタマイシン感性菌	
	・湿潤、びらん、結痂を伴うか、又は二次感染を併発している次の疾患 〈適応症〉 湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症、脂漏性皮膚炎を含む)、乾癬、掌蹠膿疱症、	
用法・用量	通常1日1~数回適量を塗布する。なお、症状により適宜増減する。	
	〈用法・用量に関連する使用上の注意〉 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。	
添加物	パラオキシ安息香酸エチル、パラオキシ安息香酸ブチル、流動パラフィン、セタノール、サラミツロウ、中鎖脂肪酸トリグリセリド、ポリオキシエチレンセチルエーテル、セトマクロゴール1000、ポリオキシエチレンステアリルエーテル、プロピレングリコール、エデト酸ナトリウム水和物、pH調節剤2成分(水酸化ナトリウム、リン酸)、その他1成分	パラオキシ安息香酸メチル1.5mg 流動パラフィン、セタノール、オレイルアルコール、グリセリン、イソプロパノール、ステアリン酸ポリオキシリル40、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油60、モノステアリン酸グリセリン、水酸化ナトリウム、クエン酸水和物
製品の性状	乳白色のローション剤においてはほとんどない。	白色のローション剤である。
製剤特性	<p>(1)ベタメタゾン吉草酸エステル(の局所抗炎症効果はStrongである(アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2021))。</p> <p>(2)ゲンタマイシン硫酸塩は、黄色ブドウ球菌及び緑膿菌を含むグラム陰性桿菌に抗菌活性を示し、既存のアミノグリコシド系抗生物質に対する耐性菌に有効な抗生物質である。</p> <p>(3)刺激感をもたらす低級アルコールを含まない乳剤性(O/W)ローション剤である。毛髪部に適する。</p> <p>※ 診療報酬上の後発医薬品に該当せず、一般名処方、後発医薬品の各種体制加算に該当しません。ただし、変更調剤は後発医薬品と同じ方法で行えます。</p>	
標準製剤との同等性	<p>・ラットによるカラゲニン足蹠浮腫の抑制効果(n=10)</p> <p>ラットにおける カラゲニン足蹠浮腫抑制試験 5日塗布 浮腫抑制率(n=10)</p> <p>ラット足蹠に1日3回薬剤塗布を4日間行い、5日目は3回目の塗布直前に起炎物質を皮下注射後、薬剤を塗布した。その後 1、2、3、4、5時間後の浮腫抑制率を比較したところ、両薬剤の浮腫抑制効果に有意な差は認められなかった。したがって、両薬剤は同等であると考えられる。</p>	
	<p>・マウス熱傷皮膚感染(臨床分離菌3種)に対する効果(n=10)</p> <p>臨床分離菌3種の熱傷皮膚感染に対する効力を比較したところ両薬剤は同等であると考えられる。</p> <p>マウスの熱傷皮膚感染の菌数変化(大腸菌E.coli)</p> <p>マウスの熱傷皮膚感染の菌数変化(黄色ブドウ球菌S.aureus)</p> <p>マウスの熱傷皮膚感染(緑膿菌P.aeruginosa)の菌数変化</p>	
使用期限	3年(室温保存)	
包装	10mL×10、10mL×50	10mL×10